

令和4年6月6日

出張報告書

津山市議会議員 金田 稔久

出張日	令和4年5月19日(木)～20日(金)
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input checked="" type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	東京千代田区永田町参議院議員小野田紀美、竹内功議員事務所他 東京ビックサイト/自治体総合フェア 2022
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	① JR ローカル線問題について要請活動(国土交通省鉄道事業課) ② JR 因美線活用について意見交換(竹内功参議院議員) ③ 津山市にかける過疎地医療について(石田昌宏参議院議員) ④ 農業振興について(藤木眞也参議院議員) ⑤ 姫新線、因美線等のローカル線問題と津山市の諸課題について陳情 (あべ俊子、逢沢一郎、加藤勝信、平沼正二郎各代議士、小野田紀美、 石井正弘参議院議員) ⑥ 挨拶(稲田朋美代議士) ⑦ 自治体総合フェア 2022
応対者/講師名	別紙名刺添付 ※加藤勝信事務所・政策秘書加藤則和
目的	①JR ローカル線問題②過疎地医療、医師確保について③津山市の現状 課題について県選出国会議員との意見交換④米対策について
概要	① JR ローカル線についての国の有識者会議が実施されている中で、7月をめどに 結論が出されることもあり、国のローカル線に対する考え方、自治体において現 状としての支援を行うにあたっての財政支援などについて小野田参議院議員事 務所のご配慮により実現し、杉田鉄道事業課長補佐などと面談した。有識者会議 結論前なので前置きをされつつ国としてローカル線についての国の考えをお 聞きしたが、JRと積極的な意見交換の場を設けてもらいたい。廃線ありきでの 議論ではなく、沿線自治体としてJRと利用推進について前向きな議論を進めて 行かなければ、これまでと同じことの繰り返しとなるのではないかと。このこと をお話が合った。私からは、国鉄から分割民営化され、約35年経過し、国鉄時代 は計画的な保線作業がされていたが、民営化後は軽微なものはされてきたが、大 がかりなものはされていなく、そのことが区間減速なども行われ、また、車両に ついては更新があまり行われなく、民間ベースの収支優先となり、輸送サービス 減退している。民業としての運営ではこの状況は当たり前である。公共交通とい

	<p>う使命だけでないものが鉄道事業にはある。昨今のCO2削減、トラック輸送における運転手不足などの課題もあり、旅客輸送だけでなく、貨物輸送の復活も見直すべきと考えるので、ローカル線における貨物輸送復活について国策として取り組んでいただけないものかという提言をし、興味深い話なので、調査してみたい。との意見交換をした。</p> <p>② 竹内功参議院議員は元鳥取市長でもあり、因幡地方の政財界に影響を持っておられることから以前より、交流があり、この度因美線の利用促進を行う上で、鳥取と津山との人的交流が疎遠となっている現状を打開するために取り組むべき課題について意見交換した。7月末で参議院議員任期が終わるが、津山との交流に役割を果たしていきたいと協力を承諾。マルイのNPO法人の理事も務めていることもあり、政財界を巻き込んで取り組める方法を考えていきたいとの話もいただいた。</p> <p>③ 石田参議院議員と過疎地診療所の医師確保について意見交換。本市にある倭文診療所再開に向けてのあらゆる角度からの助言と支援についてご尽力いただけることとなった。</p> <p>④ 藤木参議院議員は農政に明るいことから以前より交流があり、訪問した。ご本人不在であったが、秘書官と農業人材育成について国の制度の充実をお願いする。</p> <p>⑤ 岡山県選出国會議員事務所へ訪問し、JR ローカル線問題への支援と津山市政の課題について報告を行う。</p> <p>⑥ 稲田朋美代議士とは5月に来岡し、面会していたこともあり、今回挨拶し、ご本人と面談する。</p> <p>⑦ 日本経営協会主催の自治体総合フェア開催中のことから各展示ブースを訪問し、コロナ禍となってからの行政サービスのあり方を学ぶ上で参考となった。特にデジタル社会の到来、交通支援、防災、観光再生などの新たなシステムが特に興味を持った。また、自治体の企業誘致活動もデジタル社会としての企業誘致の取り組みが目立ち、旧態依然の工場誘致を中心とした製造業ベースが減少している印象を持った。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>鉄道・バスを含む公共交通のあり方について、そもそもこれら事業が起きたことの原点を見直すことがこれから取り組むべき課題が見いだせるのではないかと感じた。現在の鉄道網が構築された理由や過去の利用実態を知り、そこから現代の利用や今の地域全体の課題をどう対応していくべきかを考えることが重要。そういう意味ではまずは沿線自治体が人を運ぶ鉄道というだけでなく、複合的な活用を共有して取り組むことが急務であることを感じた。議会人として沿線自治体の議員とこの課題について共有する会議を開催するよう取り組んでいきたい。</p> <p>コロナ禍となって国はデジタル社会へ大きく動こうとしている。現在の役所の窓口などのあり方も抜本の見直す時代が来ている。そういう点で言えば、本市において市民サービスのあり方も議論する必要がある。公的な民業として運営されている郵便局機能が今のところ維持されているが、今後のことを考えると行政として連携すべきところがある。市民窓口、納税、道路維持管理などを郵便事業において補完することができるものもある。本市の機構を今一度見直し、効率化を図るとともに、アナログ的</p>

な行政が必要とされる分野に手厚くできるような人員配置ができないものかを研究していききたい。

自治体総合フェアでは、様々な内容が紹介されていた。本市では新たな工業団地構想が言われているが、もし旧態依然の製造業を中心に考えているのならば、時代遅れと感じた。地域人材の起業、研究拠点という考え方で完璧な情報通信が備えた地域エリアに集積させるやり方が時代に合った取り組みではないかと様々な関係者から聴取した話から感じた。

【総括】

新型コロナウイルス感染症によって社会活動が変化し、様々なあり方が大幅に変わってきている。本市において、時代の先取りした政策立案ができていない。何に問題があるのか。執行部におかれては再考をいただきたい。また、ローカル線問題も利用促進などの利活用について他都市では、既に取り組みされているが、本市では皆無。他都市の様子を見て政策決定をするのであれば、主体性のない、リーダーシップが取れない拠点都市としか言えない。拠点都市と自負するならば、ハード、ソフトともに先導的な取り組みをしていただきたい。その審議にあたる私たち議会としてもその内容を審議できるだけの知識、所見をもって審議できるよう精進する。

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。

(参考様式2)

令和4年7月11日

出張報告書

津山市議会議員 金田 稔久

出張日	令和4年7月6日(水)
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	新見市議会
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	JR ローカル線問題について沿線自治体議会連携について意見交換会
応対者／講師名	新見市議会仲田芳人議員
目的	JR ローカル線問題について沿線自治体の議会として行動を共にしなければとの思いから新見市、津山市のこれまでの取り組みなどについて情報共有するため。
概要	<p>新見市において6月議会にJR ローカル線の維持・存続を求める意見書を新見市議会が提出されたことを契機に芸備線・姫新線について議会として対策すべきとの機運が盛り上がってきたことを踏まえて、沿線との連携に向けて取り組みたい旨のお話が合った。津山市において鉄道など公共交通問題に取り組まれていることとのご認識から私に相談があった。</p> <p>津山市においてのこれまでの取り組みや令和3年3月に公共交通維持のための財政支援を求める意見書提出の経過、私が取り組んでいる姫新線をよくする会、因美線を愛する会などの活動について情報共有した。</p> <p>今後について沿線議員での情報交換会を開催することとなり、7月中に新見市で開催する計画について話し合った。</p>

得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など	新見市議会が積極的にローカル線問題に取り組まれるとの意思がわかり、今後の連携した取り組みに期待が持てることとなった。 津山市において姫新線、因美線が厳しい経営環境であり、情報共有できたことで、既に取り組まれている利用促進事業についてもかなり積極的に予算化されて取り組まれていることもわかり、津山市の姿勢について後退していることを改めて感じた。 いずれにしても沿線並びに県北で一体的に取り組む出発点となる打合せとなった。
-----------------------------------	---

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。

令和4年7月26日

出張報告書

津山市議会議員 金田 稔久

出張日	令和4年7月22日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input checked="" type="checkbox"/> 各種会議
出張先	新見市役所3階第一委員会室
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	沿線自治体議会議員有志 JRローカル線の利用促進・存続を考える情報交換会
応対者／講師名	広島県：安芸高田市議会①、三次市議会①、庄原市議会② 岡山県：新見市議会⑬、真庭市議会③、美作市議会①、津山市議会① 合計22名
目的	芸備線・姫新線・因美線のローカル線存続に向けた沿線議会議員有志により情報交換と連携について模索。
概要	<p>新見市議会藤澤正則議員が発起人を代表して開催までの経過を説明し、開会となった。</p> <p>石田新見市議会議長より挨拶があり、新見市において全会一致で国に意見書提出したことを踏まえ、沿線議会で連携して行きたい。と挨拶。参加者自己紹介と合わせて各自治体の取り組みについて話す。</p> <p>配布資料は新見市、三次市の利用促進事業の説明などが行われ、津山市からは津山まなびの鉄道館パンフレット、鉄道遺産パンフレット、因美線90周年写真展の紹介など行った。</p> <p>情報交換では、イベントの開催、駅トイレ整備などの話が出されたが、私からはイベントは一過性のものであり、瞬間的には利用が増加するが、鉄道は365日の営業であり、それで存続運動とはならない。生活の中の鉄道利用を定着化させるための取り組みが求められる。そのためには都市間、地域間連携の取り組みや通学、通勤の利用に結び付けていくためには行政の主導的役割がある。との考えを述べた。</p> <p>また、その昔、津山藩と新見藩は深いつながりがあり、今でも土下座まつりがあるようにご縁が深い。交流が皆無ではないか。津山と新見、そして、三次、安芸高田まで含めて中国山地ベルト地帯でしっかり都市間交流</p>

	<p>を鉄道を中心とした軸で取り組みましようと呼びかけた。 協議として芸備線、姫新線、因美線の沿線議会における議員連盟設立に向けて取り組むことをめざそうということとなった。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>岡山県・広島県の北部地域の横断的に会がされたことで、本市と規模は違えども共通の課題を抱えていることが情報交換のなかで、認識することができた。</p> <p>これまで公共交通について横断的に協議する、情報交換する場もなかったが、今回お互いの認識が共有でき、有意義な会となった。</p> <p>今後は議連設立に向けて新見市が事務局的に取り組んでいただけることも確認され、私も津山市として参加したことから設立に向け、尽力したい。</p>

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。

令和4年8月25日

出張報告書

津山市議会議員 金田 稔久

出張日	令和4年8月19日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input checked="" type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	兵庫県姫路市議会、たつの市議会、佐用町議会 鳥取県鳥取市議会、智頭町議会
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	JR 芸備線・姫新線・因美線の利用促進と存続をめざす議会議員連盟結成に向けた要請活動
応対者／講師名	別紙名刺のとおり。
目的	7月22日開催の議員連盟設立に向けて取り組むこととなり、沿線議会への参加呼びかけ、要請活動
概要	7月22日開催のローカル線沿線における議員連盟設立にむけて取り組むこととなったことを受け、8/4に津山市役所にて内容などについて協議し、姫新線津山市以東の勝央町、美作市、佐用町、たつの市、姫路市。因美線の智頭町、鳥取市への要請活動は私が担当することとなり、添付お願い文書を持参しお願いした。 ※勝央町、美作市へは8/17に持参し、要請活動を実施した。
得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など	既に取り組まれている兵庫県では足並みが揃えられるか協議したい旨の話もあったが、いずれの議会も前向きな意向が示された。 鳥取市、姫路市については事務局へ渡す形となったが、鳥取市は砂田議員、姫路市は萩原議員に連絡し、対応を依頼している。 津山市は拠点都市として鉄道の重要性は大きい。この存続運動では中核となって取り組む位置づけであることを改めて認識を持った。

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。

令和4年11月1日

出張報告書

津山市議会議員 金田 稔久

出張日	令和4年10月17日(月)～18日(火)
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	東京都新宿区 日本青年館
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	第27回清溪セミナー
応対者／講師名	衆議院議員石破茂氏他 添付名刺
目的	地方創生、地域活性化の取り組みについて学習するとともに、自治体議員との情報交換。
概要	<p>●講義Ⅰ 今あらためて地方創生を考える 石破茂代議士</p> <p>地方創生は人口減少を食い止めるかが最大の課題。その人口減少対策を行わなくして地方も国も創生はできない。今日に至るまでの歴史的背景をもとに、講演があった。</p> <p>問題を先送りして取り敢えず進めていたこれまでの国や地方行政が改善せずして今日に来たと思う。特に所得向上ができていた時代は出生数も増加していた。経済の停滞、所得の停滞が1つの原因である。その改善なくして地方も、国も存続できない。その問題を改善するべく、行動が求められている。</p> <p>●講義Ⅱ 人口5000人の小さな町はなぜ進化しつづげるのか</p> <p>徳島県神山町 神山まると高専設立準備財団代表理事 大南信也氏</p> <p>高齢化率54%という未来がない環境を変えたい。</p> <p>町と世界を繋ぐことをやってみよう!!そこが原点。素敵な日本の田舎を作る、人口構成の健全化をめざし、多様な働き方が可能なビジネス場を創造し、サテライトオフィス、個人プロジェクトが実現し、自分のやりたいことが実現できるところへ。そのテーマから人が人を呼ぶ取り組みができた。そこで、お互いが人と人との協力関係からビジネスチャンスが広がっている。そして地域内経済を回す。また、教育は国頼みではなく、色々なセクターを活用し、構築する神山まると高専を開校した。</p> <p>素敵な日本を素敵な日本に!!身の回りの変化から世界を変える。</p>

●講義Ⅲ 地方創生・・・議会と自治体が果たすべき役割

エリア・イノベーション・アライアンス代表理事 木下斉氏

地方は国から貰う(予算)ことに慣らされている。貰うより、稼ぐという考えに!

福井県鯖江市は眼鏡フレームの町だが、医療関連機器へ町の産業業態を拡大した。

様々な意見が出されるが、聞かないといけない話と、聞かなくてもよい話もある。取捨選択が肝要。行政計画、総合計画があるが、企業が事業計画を立てるのに外注に出していたら成功しない。個性的な計画が特徴あるまちづくりへとなる。魅力的な民間をどのように地方に味方させるか。そういう視点でやってもらいたい。

中心市街地は空き店舗・・・昔と今と未来を考えて必要とする商売は何か?そこを考えずして穴埋めばかりがほとんどであり、その失敗例は津山市と青森市。

その場しのぎ、取り敢えずが負を大きくしていく。

これからは稼ぐインフラをどう整備していくか。議会議員の都市経営能力を持ち、執行部と対峙してもらいたい。

●講義Ⅳ 民学産公官の協働によるコミュニティ創生とDX化の課題

前三鷹市長 清原慶子氏

自治基本条例の制定は重要。

行政の福祉関連は縦割り行政だが、地域や現場では串刺しの体制

声なき声・・・傾聴・・・本音を聞き出す政治姿勢を。

子ども憲章の制定に取り組む。

「やる気」はすべての人が持っている⇒引き出すことができていない。

AIは賢く使う。ただ、AI独裁者を作らない。そのためには人が肝要である。

命・人権・民主主義 命を保証するのが人権であり、独裁者を作らないこと!!

●講義Ⅴ 2000 社働き方改革コンサル事例から紹介

ワーク・ライフバランス社長 小室淑恵氏

みんなにライフがあることを忘れてはいけない。会社中心社会となり、構造上問題。長時間労働、男性育児時間に問題がある。

生産労働人口 15 歳から 65 歳への働き方改革が必要。

睡眠時間の減少...集中力に影響する。7 時間睡眠が取れる環境づくりを。

人生の評価は上司がつけるものではない。

●講義Ⅵ 若者の声が届け、その声が響く社会を目指して

NO YOUTH NO JAPAN 代表理事 能條桃子氏

社会を作っているのは誰・・・私たちが作っている。

政治は誰かが、いい感じにやってくれている???

いい政治家がないのは、いい有権者がいないから。

声を上げれば動くのだという実績を。

デンマークの投票率は高い。

国民・・・政治・・・鏡である。

有権者が政治を作っているという考えを浸透させ、よい政治議論ができる政治を有権者が作る。その教育、運動が必要。

<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>地方創生がはじまって 8 年くらいになるが、関連性はあるが、本来の目的から離れているような内容も目立ってきていることの警鐘をこのセミナーを通じて感じた。地方創生は、地方における人口減少をどう歯止めするか。日本全体の人口減少対策のための事業であることを認識し、そこで、成功事例や考え方の整理ができた 2 日間であった。</p> <p>様々な取り組みをするにあたって成功事例は数少ない。その理由は事業計画から実施、中間状況のチェックと改善が議会でされていないことではないかと感じた。講義Ⅲでは、津山市においては再開発の失敗事例が講演で話されたが、その決定をした議会の責任が指摘された。議決後も推移を見届けることが議会としての役目。地方創生で様々な事業に取り組んでいるが、議会が事業のチェック、進行管理をすべきだという話は私も同感である。その指摘を受けた津山市議会であり、議会議員の資質が問われている。</p> <p>津山市は様々な事業を推進しているが、住民の代表であり、代弁者である議会議員としての原点を今一度考えこれからの取り組みに挑むべきだと強く感じた。</p>
---	--

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。

(参考様式2)

令和4年11月30日

出張報告書

津山市議会議員 金田 稔久

出張日	令和4年 11月 29日
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	香川県高松市消防局
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	映像通報システムLive 119の運用状況調査
応対者／講師名	高松市消防局次長・情報指令課長福山和男氏他
目的	携帯電話の動画を活用した通報初期段階での応急処置指示などの運用状況を調査し、津山圏域、美作地方指令センターでの実現に向けた取り組みの研究のため
概要	<p>内容は添付資料の通りで、通報者から指令センターに通報ご、SNS ショートメールにてやり取りし、URL を開いて映像通話にて状況を指令センターへ、指令センターはさらに急行中の消防隊員へ状況を伝えることができることから大変有益な機能である。</p> <p>実際に使用してみたが、携帯電話の電波状況でスムーズにいかないこともあったが、再度通信すると通じた。</p> <p>火災、救急とも現場の状況がライブで確認できることから出動体制も効率的に運用できるとのことであった。また、AED の使用方法が緊急時だとうまく使えないこともあるが、このライブ 19 によって指令センターからも指示できるので、大変有効である。</p>

得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など	津山圏域消防組合(美作指令センター)においてはシステム上はこの運用ができる機能があると関係者から聞いているが、現段階では運用されていない。今回の調査は実現性の課題を調査するため真庭市議会緒形議員と同行した調査を行った。津山のみならず、美作地方は救急隊到着まで時間のかかる場所が多くあり、到着前に応急処置ができれば、大きな改善になると考えるので、実現に向けて自治体連携をして取り組んで行きたい。
-----------------------------------	--

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。